



歳末特別警戒の実施について

今年も残すところ僅かとなり、慌ただしさから火の取り扱いが疎かになりがちです。また、この季節は暖房器具からの火災が多く発生する季節でもあります。火災予防の取り組みとして消防では12月25日～31日まで歳末警戒を実施します。

今一度「住宅防火 いのちを守る10のポイント」を心掛け、火災のない明るいお正月をお迎えください。



「住宅防火 いのちを守る10のポイント」

《4つの習慣》

- 1 寝タバコは絶対にしない、させない
- 2 ストープの周りに燃えやすいものを置かない
- 3 こんろを使う時は火のそばを離れない
- 4 コンセントはほこりを清掃し、 unnecessary プラグは抜く



《6つの対策》

- 1 火災の発生を防ぐために、ストーブやこんろ等は安全装置のついた機器を使用する
- 2 火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する
- 3 火災の拡大を防ぐために、部屋を整理整頓し、寝具、衣類及びカーテンは、防災品を使用する
- 4 火災を小さいうちに消すために、消火器等を設置し、使い方を確認しておく
- 5 お年寄りや身体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保し、備えておく
- 6 防火防災訓練への参加、戸別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行う

除雪事故について

雪による事故の死者の多くは、除雪中の事故によるものです。

令和4年度では、雪による人的被害の約8割が自宅の建物の屋根の雪下ろしや雪かきなど、除雪中の事故となっています。雪下ろしの事故の場合、屋根からの転落事故が多く、高齢者や一人での作業中に多く発生しています。除雪作業をする際は複数人で行うようにしましょう。

「除雪中の事故防止ポイント」

- 1 作業は家族、隣近所にも声をかけて2人以上で行う
- 2 建物の周りに雪を残して雪下ろしをする
- 3 屋根の雪がゆるむため晴れの日ほど注意する
- 4 梯子を忘れずに固定する
- 5 エンジンを切ってから除雪機の雪詰まりを取り除く
- 6 低い屋根でも油断しない
- 7 作業開始直後と疲れたころは特に慎重に作業する
- 8 面倒くさがらず命綱とヘルメットを装着する
- 9 命綱、除雪機など用具はこまめに手入れ・点検をする
- 10 作業する際は携帯電話を持っていく

「除雪事故ケース」

- ・ 屋根からの転落
- ・ 屋根からの落雪
- ・ 水路等への転落
- ・ 除雪機の事故



女性消防部による単身高齢者宅の防火査察実施

鶴居消防団女性消防部は11月5日（日）に単身高齢者宅の防火査察を実施しました。

今年は鶴居市街地区以外を対象に訪問し、高齢者の方一人ひとりに手作りの『鍋敷き』と防火についてのチラシやティッシュを手渡し、火災予防を呼びかけました。



冬季の暖房器具の取扱いについて

冬場の乾燥した季節は、暖房機器の取扱いが増え、それに伴い灯油の取扱いも増えてきます。ストーブを消さずにそのまま手動ポンプで灯油を入れるなど、誤った取扱いにより火災になった事例も発生しています。灯油をストーブへ入れる際は、**必ずストーブを消し、カートリッジを戻すときは、蓋が確実に閉まっていることを確認**しましょう。

また、新型コロナウイルス感染症の流行により、消毒用アルコールの使用が普及し使用の機会が多くなったことかと思えます。しかし、消毒用アルコールから発生する可燃性蒸気は空気より重く、思わぬところで引火し、火災が発生する可能性がありますのでストーブの近くで消毒用アルコールは使用しないようにしましょう。

「灯油の保管ポイント」

- ・火気使用場所から離れたところに保管する
- ・常に整理、清掃を心掛ける
- ・灯油を入れる容器や栓に破損がないか確認する
- ・地震による転倒、落下が起こらないように棚などの固定や滑り止めの設置をする



酪農家の皆さんへ

畜舎内での電気ストーブやジェットヒーターなどの暖房器具の取り扱い、壁や燃えやすい可燃物から十分に離して使用しましょう。長時間、同じ場所で使用すると温められた可燃物が極度に乾燥し低い温度でも発火することがあります。機器の取扱説明書を良く読んでから使用しましょう。

SNS始めました！
鶴居消防署公式SNS

Instagram



X

